平成21年度教育委員会事務点検評価(平成20年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の其太事項

1 事務事業	業の基	基本事項		整理番号	3		
事務事業	十岀	等との連携事業	担当部課	教育委員会 生流	厓学習部 社	会教育課他	
の名称	八子	守との连拐争朱	電話番号	04-2953-1111 内線5673			
実施期間	Σ	P成17年度 ~					
総合振興	5章	人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画 (H20 ~ 22)	地域生涯学習施設拡大事業			
計画に おける	1節	生涯学習の振興	事業名	地名工胜于目110以114八争未			
	1項	生涯学習の推進	個別計画等	生涯学習基本計画			
位置づけ	2目	生涯学習の機会や場の拡充	の名称		Щ		
実施根拠	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律・社会教育法						
事業区分	☑ 自治事務 □ 法定受託事務 □ 法定受託事務 + 自治事務						
事業開始 生涯学習に対する市民の関心の高まりに呼応して、いつでも、どこでも、だれもが学ぶことのできる環境を の背景等 整備するため、市内の大学等と連携して、学習機会と場の拡充を図ることとしたものである。							

2 事務事業の目的・内容

目的	市内の大学等との連携を図るなかで生涯学習の機会や場を拡充する。					
対象	大学、高校					
活動内容	東京家政大学とは連絡協議会を設置し、連携を図るとともに、他の大学や高校も含めて、公開講座の情報を市ホームページに掲載し、また、ポスターやチラシについても公民館・図書館・集会所等に置いて周知を図った。 また、狭山シニア・コミュニティ・カレッジの授業の一部を市内外の大学に委託した。					
(下段)前年度 の方向性に対 する改善活動	前年度方向性評価) 内容の見直し 連携方策等について検討を行った。					
環境配慮	・参加者に対して、近距離の移動の際は自動車の使用を控えるように呼びかけている。 ・資料等を作成する際の部数は必要最小限としている。					
実施形態	□ 直営 □ 全部委託 ☑ 一部委託 □ 指定管理 □ 補助·負担 □ その他()					

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	目標値の根拠・考え方
		目標値	校	4	4	4	4	
	連携大学数	実績値	ťΧ	4	4	3		市内大学数と市外の委 託大学数
施動		達成率		100.0%	100.0%	75.0%		107 () 24
状指 況標		目標値						
ル信		実績値						
		達成率						
		目標値						
成		実績値						
成果		達成率						
果指 標		目標値						
信示		実績値						
		達成率			·	·		

4 事業費

			X	分	単位	18年度	19年度	20年度	21年度
			予算額	[千円	900	2,712	3,287	1,445
	直		決算額	Į	千円	900	2,712	2,788	/
	接費	妾	n.l.\r	国県支出金	千円				/
経			財源 内訳	その他特定財源	千円				/
費			1 3 11/4	一般財源	千円	900	2,712	2,788	
			人件費 従事職員数			0.15	0.71	0.27	
			T具	人件費(従事職員数×平均給与)	千円	1,346	6,364	2,477	
	事業費計(直接費決算額+人件費)				千円	2,246	9,076	5,265	/
効率		指標名		連携大学数	校	4	4	3	1単位当た
指	漂	単位コスト		連携大学あたりの経費	千円	562	2,269	1,755	リの経費

5 事務事業の評価

う 争が争未の計画							
	項目	評価の視点	評価	評価理由			
	必要性	・目的の妥当性・市民ニーズへの対応・市が関与する必要性・市が負担する必要性など		大学等と連携し、大学等が有する学習資源の活用を図ることは、生涯学習の機会や場の拡充を通じて、生涯学習の推進に大き〈寄与するものである。			
個別評価	有効性	・活動目標の達成度 ・成果の向上 ・上位施策への貢献度 ・市民サービスの向上 など	4 前年度 4	市内外3つの大学とは、公開講座の市民への周知、狭山シニア・コミュニティ・カレッジの一部委託等を通じて、具体的な連携を図ったが、連携のより一層の推進を図っていく必要がある。			
	効率性	・手段の最適性 ・コスト効率の向上 ・受益者負担の適正化 ・執行体制の効率化 など	3 前年度	大学等の公開講座については、ポスター掲示やホームページへの掲載に 留まっている。大学等にも生涯学習の推進に一定の役割を果すことが求め られており、より一層の連携を図っていく必要がある。			
		< 5 段階評価 >	5:7	極めて高い 4:高い 3:普通 2:低い 1:かなり低い			
		□継続 ☑ 内容の	り見直し	- □ 抜本的見直し □ 廃止 □ 休止 □ 完了			
今後の 方向性 既存の連携について拡充を図るとともに、新たな連携方策の確立を図り、生涯学習の機会や場の充実を図っていく。							

6 その他 (学識経験者の意見等)

・大学との連携のための協議機関を設けることが必要である。また、ギブ・アンド・テイクないし、ヒフティヒフティのスタンス

・今後の方向性のとおり、単なる学習機会や学習の場の充実というだけでなく、内容の工夫も必要である。「新たな学習 機会の創出」という面でも検討が求められる。